

資料館開館30周年



孺恋郷土資料館（黒岩秀二館長）がこの10月で開館30周年を迎えました。記念事業実施委員会では、10月5日午後1時半から、同資料館2階の視聴覚室において記念式典および記念講演会を開催し、開館30周年を祝うとともに、今後さらなる飛躍・発展を目指していくことを誓いあいました。

..... ○ ○ ○ ○ ○ ○

記念式典は、孺恋村教育委員会の松本源事務局



引き続いて熊川栄村長、大久保守村議会議長が川村長は、天明3年の浅間山大噴火は、旧鎌原村たらしめた我が国史上最大級の噴火災害であったは社会教育の中心施設であると強調。また同じ噴歴史を持つ世界遺産のポンペイ（イタリア）との県の指定文化財である鎌原の地域も、今後国の文施設となれるよう、皆さんの協力をお願いし新た

資料館の初代館長で現名誉館長の松島栄治氏、

長の司会で進行、はじめに熊川浩教育長が、この30年、資料館の運営、発展に協力・貢献いただいた関係者への感謝を述べ、これからも村の歴史資料、民俗文化財などの史資料の収集に努め、展示内容の充実をはかって、村内外から来館する人々を感動させられるように、また、あらゆる情報を発信していけるよう努力してまいりたいとあいさつ。

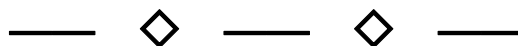
順番に祝辞を述べました。このうち熊をはじめ多くの村々に甚大な被害をもと述べ、その鎌原に設立された資料館火災害で古代都市の埋没という悲惨な友好交流の進展状況を紹介しながら、化財に指定されるよう、また国際的な出発を期していきたいと語りました。

世界的な火山学者で、浅間火山研究の

記念式典さらなる充実発展を期して

第一人者でもある東大名誉教授の荒牧重雄氏ら、資料館の発展に寄与した個人や団体に感謝状が授与され、このあと村議会総務文教委員会の滝沢倭明常任委員長、孀恋郷土資料館友の会の土屋澄孝会長らからお祝いのスピーチがありました。

記念講演会



松島栄治氏



草莽の文化とは 18 世紀後半以降の民間・在野の文化であり、特に商品流通が盛んになった。では、同時浅間押しによるえて論を展開。こと大変生産性が低福であったと説リアのヴェネチ

から江戸初期にかけ中国から輸入されて時の文人墨客の間で愛好され、高価で取引には磁器 48 点があり、鎌原村では当時、

資料館に見る草莽の文化

たこのころ、地方郷村を中心に展開されたと述代の鎌原地域ではどうであったか、天明 3 年の埋没村落発掘調査に携わった研究結果を踏まの時代、孀恋地域 12 カ村の平均石高は 115 石く、その中で宿場村の鎌原は 309 石と比較的裕明。埋没家屋からの発掘物を見てみると、イタリア製だと言われる「ビードロの鏡」、室町期いた生糸受け取り証文用の銅製の「糸印」（当された）、また延命寺跡から発掘された物の中既に伊万里、唐津などの肥前焼が盛んに使われて

ていたと指摘。他県の資料館などに展示されている庶民の生活用品を見ても、このような例は稀で、当資料館所蔵の品々を見る限り、この地域の草莽の文化はかなり進んだものであったことは明らかであると語った。（要約）

荒牧重雄氏

浅間火山の研究活動に携わってから 60 年。「浅間

火山との共生」を演題に与えられ、それは山への畏怖から来るものであろうことは者の立場から言えば、浅間山ほど興味を抱変に魅力的であると強調した。終戦直後か登り、山ろく周辺を歩き回った経験を踏ま生”を図るためには、何よりも浅間山を知真実を知れば、怖いばかりではなく、火山る温泉も、みな火山のおかげである）を指おかげで、小さな噴火については、まだ予のような大噴火については、（火山性地震

浅間火山との共生とは

とりもなおさず、浅間火想像できると指摘。研究かせる山は他になく、大ら幾度となく浅間山にえて、“浅間火山との共ることであると訴えた。



周辺ならでの素晴らしさ（景観も、孀恋が誇摘。しかも近年の研究成果、科学技術の進歩の知することは難しい点もあるが、天明 3 年の時が頻発したり、山体膨張など様々な前兆現象が

あり、それらはすべて計器によって記録され、噴火警戒レベルが設けられるなどのほか) 直前の噴火活動についても予知することがある程度できるようになったと語った。(要約)

相次ぎ関連の記念行事・事業を展開

孺恋村文化財めぐり



仁礼街道跡

孺恋村内の文化財を訪ねる催しが6月9日に行われました。これには文化財などを長年独自で研究してこられた田村喜七郎氏が講師として同行。「仁礼街道」、「百番道しるべ観音」、「溶岩樹形」、「抜道の碑」、「大笹関所跡」などを一日かけて回りました。



百番道しるべ観音



溶岩樹型



抜道の碑

第十七回十五夜お月見の会

9月19日には、恒例の「第17回十五夜お月見の会」が、資料館

3階展望室を会場に優雅な雰囲気の中行われました。ここでは主催者を代表して熊川浩教育長があいさつ。つづ

いて佐藤重雄さんがチェロで、サン・サーンの「白鳥」、ロベルト・シューマンの「トロイメライ」などを演奏、参加者を魅





了しました。藤原栄三郎さんによる「昔語り」のあと、桑原ふみ子さんとそのお弟子さんたちによって、「十五夜の茶会」が行われ、参加者全員に抹茶と茶菓子がふるまわれました。松島名誉館長の講和では、「茶の湯」と孺恋村」について話があり、文化の香り豊かなこうした催しを17年も続けられたことに誇りをもちたいと語りました。

記念誌「30年の歩み」を発刊

孺恋郷土資料館開館30周年の記念誌「30年の歩み」が10月5日に発刊されました。これには、熊川浩教育長のあいさつ、熊川栄村長、大久保守村議会議長のお祝いのことば、また資料館の開館、あるいは発展に功労のあった松島現名誉館長、荒牧東大名誉教授、豊田博元教育長が「30年の歩みに寄せて」と題して、それぞれ一文を寄稿。さらに資料館に関係する各団体の責任者も慶びの言葉を寄せています。このほか資料館の30年の歩み、概要、各種活動、略年表、村の指定文化財などを、カラー写真入りで紹介しています。



第1回孺恋郷土資料館作文コンクール =12月25日必着で原稿を募集中=

孺恋教育委員会並びに孺恋郷土資料館では、開館30周年を記念して、第1回作文コンクールを開催しており、原稿を募集しています。資料館に来館し、見学していただいた小学生、中学生および、一般の方々から、見学しての感想、火山噴火などの自然災害に関する意見や、防災・減災についての提言などを募っています。

応募期日：平成25年12月25日必着

募集原稿：400字詰原稿用紙3枚以内

応募方法：原稿とは別の用紙に、住所（郵便番号、電話番号も明記）、氏名、生年月日、性別を明記して、原稿といっしょに郵送してください。Eメールでも可

応募先：「孺恋郷土資料館」 〒377-1524 群馬県吾妻郡孺恋村大字鎌原494

TEL・FAX：0279-97-3405

メールアドレス：shiryokan@vill.tsumagoi.gunma.jp

(by ガンピー)